

巻頭言

■焦らず、慌てず、諦めず



徳島大学薬学部長

佐野茂樹

Shigeaki Sano

戦 後間もない1949年(昭和24年)5月、学芸学部ならびに医学部、工学部の3学部からなる徳島大学が国

立大学として設置されました。「人・地域をはぐくみ未来をつくるー徳島大学70ー」というキャッチコピーのもと、少々動きに難のある公式マスコットキャラクター「とくぼん」が、来年に迫った徳島大学創立70周年を盛り上げようと奮闘しています。一方、薬学部の歴史は古く、その起源は長井長義先生のご提言により徳島高等工業学校応用化学科に製薬化学部が設置された1922年(大正11年)10月に遡ります。製薬化学部は、徳島高等工業学校製薬化学科、徳島工業専門学校製薬工業科、徳島大学工学部薬学科へと改組された後、1951年(昭和26年)4月に工学部より分離独立し、わが国唯一の工学系に端を発する国立大学薬

学部として徳島大学薬学部が誕生しました。したがって、薬学部の歩みは製薬化学部で授業が開始された1923年(大正12年)4月を起点とし、5年後の2023年には大きな節目となる創立100周年を迎えます。その歴史を振り返るとき、幾多の困難に遭遇しながらも屈することなく、「薬の創製(創薬)をめざす」という学部創設の精神に基づき、徳島大学薬学部の躍進を支えてこられた卒業・修了生ならびに教職員の方々のご尽力には感服するばかりです。歴史の重みを厳粛に受け止め、新たな未来をしっかりと見定め、「焦らず、慌てず、諦めず」の精神で、みなさんと共に着実な歩みを続けたいと願っています。

国際交流

■東國大学校との学術交流

徳島大学薬学部長

佐野茂樹

Shigeaki Sano

大 韓民国でも有数の大規模私立大学として知られる東國大学校にある薬学大学(College of Pharmacy, Dongguk University)との部局間学術交流協定に基づき、本年度も2名の教員(Prof. Chang-Ik ChoiとProf. Young Hee Choi)が7月3日から2泊3日の日程で徳島を訪問されました。「平成30年7月豪雨」をもたらした台風7号が接近する中、幸いにも特別講演会をはじめ薬学部の

～さらなる発展と深化をめざして～

施設見学、薬学部教員との懇親会、藍染体験や阿波踊り体験など、予定したすべての日程を無事に終えることができました。東國大学校薬学大学と徳島大学薬学部は、平成24年12月に部局間の学術交流協定を締結し、毎年2名の教員が相互に訪問することで交流を深めてまいりました。平成30年11月に藤野裕道教授と田中直伸准教授が訪韓されますと、合わせて31名の教員(東國大学校薬学大学教員16名、徳島大学薬学部教員15名)が相互に招聘・派遣されたこととなります。昨年末には部局間学術交流協定を更新いたしましたが、学術交流のさらなる発展と深化をめざし、今年度中には本協定を大

学間の国際交流協定へと格上げすべく、協議を進めているところです。今後も地道な交流活動により両大学間の相互理解を深め、大学間ひいては両国間の関係強化・拡充に少しでも貢献できればと願っております。



Young Hee Choi 先生と Chang-Ik Choi 先生(右)